

ティーチング・ポートフォリオの導入勉強会（報告書）

第3期中期計画（2022年度から2027年度）に係る年度計画として「FD委員会は、全学共通のティーチング・ポートフォリオの導入を目的に試行的実施案を検討する」ことになっていきます。導入をスムーズに進めるためには、ティーチング・ポートフォリオに興味や関心のある教員から実施していくことが望ましいため、FD委員会主催の勉強会を開催しました。勉強会開催後のアンケート結果を添えて報告します。

記

1. ティーチング・ポートフォリオ勉強会参加者募集

募集対象：ティーチング・ポートフォリオに興味や関心のある教員

募集期間：令和4年12月19日（月）～12月27日（火）

勉強会概要：①令和4年度（～R5年3月末日）の開催頻度は1～2回程度

②参考図書の購入希望などFD予算から支出

③FD委員からコーディネーターを選出（予定）

2. 参加者：FD委員から5名を始め、総勢9名から申込があった。

木村堅一、宮平栄治、阿部正子、林優子、小賦肇、

仲田好邦、濱本想子、松下聖子、笠村淳子

参加者募集

ティーチング・ポートフォリオの導入勉強会

第3期中期計画（2022年度から2027年度）に係る年度計画として「FD委員会は、全学共通のティーチング・ポートフォリオの導入を目的に試行的実施案を検討する」ことになっていきます。

つきましては、試行的実施案を検討し、導入をスムーズに進めることができる教員から実施していくことが望ましいことから、下記のとおり、ティーチング・ポートフォリオに興味や関心のある教員を募集し、まずは、勉強会から取り組みたいと考えています。興味・関心のある教員のみなさまのご参加をお待ちいたします。

記

【ティーチング・ポートフォリオ勉強会参加者募集】

1. 募集対象：ティーチング・ポートフォリオに興味や関心のある教員
2. 募集期間：令和4年12月19日（月）～12月27日（火）
3. 勉強会概要：①令和4年度（～R5年3月末日）の開催頻度は1～2回程度
②参考図書の購入希望などFD予算から支出
③FD委員からコーディネーターを選出（予定）
4. 申込先：教務課 学習支援係（新川）

イメージ 第4回FD委員会
(R4.6.22)ディスカッション内容(抜粋)

授業科目単位で書籍

履修ガイド
シラバス
実際に授業で使用（配布）した教材

学生に課した課題
(中間試験・期末試験を含む)

学生から提出された答案

履修科目登録	時間割	授業評価 アンケート	成績評価
--------	-----	---------------	------

【ティーチング・ポートフォリオ】
大学等の教員が自分の授業や指導において投じた教育努力の少なくとも一部を、目に見える形で自分及び第三者に伝えるために効果的・効率的に記録に残そうとする「教育業績ファイル」もしくはそれを作成するに於ける技術や概念及び、場合によっては運動を意味している。

ティーチング・ポートフォリオの導入により、
①将来の授業の向上と改善、
②証拠の提示による教育活動の正当な評価、
③優れた熱心な指導の共有などの効果が認められる。

出典：学士課程教育の構築に向けて（省申）
(平成20年12月24日中央審議会)用語解説より

3. 第1回ティーチング・ポートフォリオ勉強会

開催日：令和5年2月27日（月）14：15～15：00

場 所：本部棟4階 第1会議室

参加者：9名全員参加

木村堅一、宮平栄治、阿部正子、林優子、小賦肇、
仲田好邦、濱本想子、松下聖子、笠村淳子

内 容：ファシリテーター 木村先生

○本勉強会の趣旨（TPによる自らの教育活動の可視化

⇒ 授業改善、説明責任、大学の教育目標との紐づけ を体験 ⇒ 学内へ広げる）

○勉強会の期間（R5 3月末までに成果を出す）

○勉強会の目標（参加教員9名の全員が、TPチャートを完成させる+次のTP勉強会参加者にとってのメンターとなる）

○教材の確認（テキスト、TPチャート紙、付箋）

※TPチャート電子版は、<http://a4tp.info/how-to-create-tpc/> からダウンロードできます。

○本日の目標の確認（TPチャート作成の動画視聴の設定、個人作業をスタートさせる！）

※動画は、<https://portfolio04477.igaku-shoin.co.jp/> から視聴できます。なお、テキスト表紙裏のログインIDとパスワードが必要です。

○（時間があれば）個人作業を実践してみましよう。

- ・ 基本情報の入力
- ・ 作成目的の記入
- ・ 教育責任の作成
- ・ 改善・努力の作成
- ・ 成果・評価の作成



第1回ティーチング・ポートフォリオ勉強会の様子

4. 第2回ティーチング・ポートフォリオ勉強会

開催日：令和5年3月15日（水）10:00～11:30

場所：本部棟4階 第1会議室

参加者：8名全員参加（欠席：林優子（出張））

木村堅一、宮平栄治、阿部正子、林優子、小賦肇、
仲田好邦、濱本想子、松下聖子、笠村淳子

内容：ファシリテーター 木村先生

○TPチャートを完成させる+次のTP勉強会参加者にとってのメンターとなる

○本日の目標の確認（グループワーク1（テキストP.29～））

個人で完成させた「TPチャート」について、

- ・自己紹介とチャートの共有
- ・対応づけの共有と対話
- ・エビデンスの共有と探索
- ・目標、感想の共有

上記のペアワークを行い、TPチャートを完成させる

○グループワーク（共有）においては、話し手の言っていることを受け入れること（否定をしないこと）を常に意識する

○グループワーク1「自己紹介とチャートの共有」

（テキストP.29参照）（責任、改善・努力、成果・評価の共有）

○グループワーク2「対応づけの共有と対話」

（テキストP.36参照）（理念、方悪心、方法の共有とフィードバック）

→ 共有（プレゼン）を行ったあと、自身での振り返りを行う

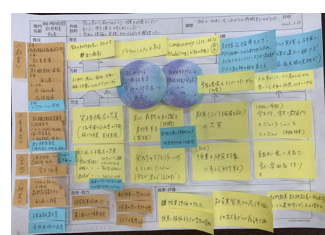
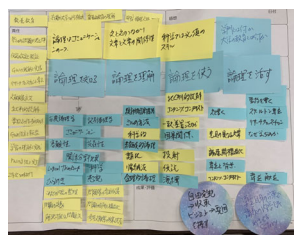
○グループワーク3「エビデンスの共有と探索」※意見交換（アイディアの交換）

（テキストP.39参照）（責任、改善・努力、成果・評価、方法のエビデンス）

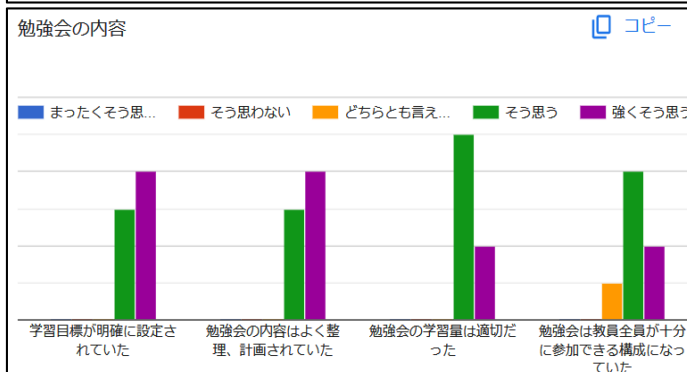
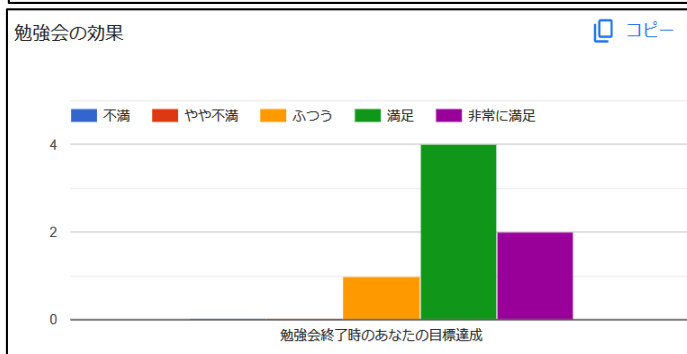
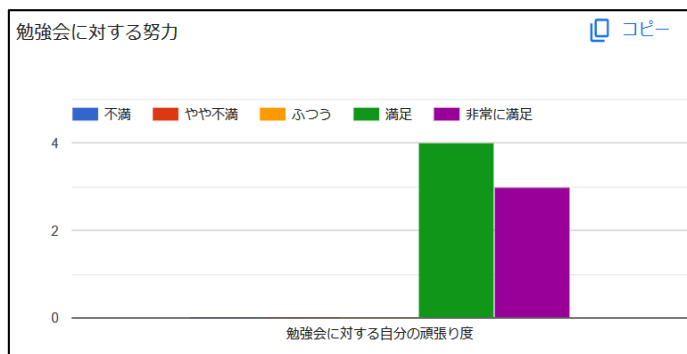
○グループワーク4「目標、感想の共有」

（テキストP.41参照）（目標と感想を共有）

○思考ツールなどのアイディアなどあれば、FD委員会としてTips集に盛り込みたい



TP 勉強会 受講者アンケート 集計結果



この勉強会は、どのような点が特に役立ちましたか。(自由記述)

- 自らの教育活動の可視化、そして授業改善点だけでなく自らの教育活動の背後にある価値観を再発見することができたこと。他の教員にもお勧めしたい。
- 普段の自分の教育活動の源にあるものを確認する出来た。また、教育方法の新たな示唆を得ることができた。可視化するだけではなく、短時間でも良いので、そのことを否定せず、共有できることには大きな意味があると実感した。
- 自身の考えをアウトプットし、俯瞰できた。ペアワークでポジティブなフィードバックをいただき、授業の工夫点も知ることができてさっそく新学期から活用してみたいと思う。
- ふり返りと他の発想法との関連性が明確になった。
- 日頃から反省的に授業改善に励もうと取り組んできましたが、いつも局所的で全体を俯瞰して考えることはできていませんでした。今回のティーチングポートフォリオ作成（ペアワークも含めて）を通して、自分が今行っている教育（関連して研究も）に関して、様々な視点から俯瞰して考えることができ、その関連性を整理することができました。自分を客観視するとても貴重な機会となりました。ありがとうございました。
- 気づきと学びを得られました。ペアの宮平先生のお考えがとても参考になりました。
- 自分自身のキャリアの見直しとして参加したが、他者に話すことと他者からのコメントで、見えなかったことが見えてきたこと。

この勉強会のどのような点を改善した方がよいと思いますか。(自由記述)

- 採用した教科書と利用可能な動画教材がよくできており、勉強会単独の改善点はない。ただし、名桜大学の建学の理念、教育目標、学位プログラムとの関連性について考える時間を設けるとさらに名桜大学らしい勉強会になるでしょう。また、第2回目の勉強会に参加できない先生がいたので、欠席した場合の対応の検討が必要です。さらに、勉強会を最後まで修了したことを証明する「修了証」を発行すると、TP勉強会に参加したエビデンスになると思います。
- 新理論は、2つ以上の概念を組み合わせる、または、2つ以上の理論を抽象化することで得られることからティーチング・ポートフォリオに他の概念を加えることで名桜型ティーチング・ポートフォリオができると思う。
- 修正版を用いて全体での共有をする機会があれば、さらにアイデアが広がったり、相互に刺激がしあえるかなと感じました。
- 時間が限られていましたが、小規模の人数でしたので全体で成果をシェアする時間があってもよかったと感じました。
- 勉強会についてではないのですが、TPを実装する際には、授業評価アンケートを含めてはどうかと考えました。
- 有意義な時間でした。また、次の企画も楽しみにしております。お疲れさまでした。ありがとうございました。
- 土台となる用紙と付箋紙の大きさが合っていなかったなので、改善してほしい。あるいは、テキストと同じようにデジタル版でも対応できるようにするとよいかと思います。

